

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：84301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01916

研究課題名(和文)河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study on the Culture and History of Buddhism in the Kawachi Region

研究代表者

佐々木 丞平(SASAKI, JOHEI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・その他部局等・館長

研究者番号：20144313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 17,700,000円

研究成果の概要(和文)：河内地域は大阪府の南部に位置し、古代より継続的に仏教文化が花開き、由緒ある古寺にもめぐまれている。四天王寺など、聖徳太子にゆかりの寺院も多く、本調査ではそれら聖徳太子ゆかりの寺院の中から、教興寺をえらび本尊弥勒菩薩像を中心に調査をおこなった。また、この地域は、南が和歌山県と境を接することから、高野山金剛峰寺とも近く、弘法大師空海およびその弟子たちによって開かれた真言寺院も多い。その中から、河内長野市の金剛寺と観心寺という二つの大きな寺に焦点をあて、悉皆調査をおこなった。その結果、金剛寺では重要文化財『遊仙屈』と一連のものともみられる未知の作が見つかるなど、多くの成果を上げることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

河内地域は、聖徳太子や行基といった、古代の仏教文化を考える上で極めて重要な人物にもゆかりが深く、両者が建立したという伝説を持つ寺院が多い。また、和歌山県とも境を接することから、弘法大師空海ゆかりの金剛峰寺と地理的にも近く、真言宗に属する古寺にも恵まれている。中世に真言律宗を広めた、叡尊にも関係が深い地域である。にも関わらず、これまで体系的かつ悉皆的な調査はあまり行われてこなかった。そのような状況のなかで、当該地域の真言寺院の双壁ともいえる金剛寺、観心寺の悉皆調査が実施でき、新たな発見もあったということは、学術面のみならず社会的にも意義深いことといえよう。

研究成果の概要(英文)：The Kawachi area in the southern part of Osaka prefecture is home to many still existing old temples, which are associated with Prince Shotoku. Of the temples related to Shotoku, Kyoko-ji Temple was chosen for the current investigation. The primary focus was on the temple's main icon, a statue of Bodhisattva Maitreya. To the south, the Kawachi area borders Wakayama prefecture, famous for a number of major Shingon sect Buddhist temples founded by priest Kukai and his disciples. Probably the best known is Kongobu-ji Temple on Mt. Koya, which was established by Kukai. On this occasion, a comprehensive survey was conducted at Kongo-ji and Kanshin-ji Temples, two major Shingon sect temples located in Kawachi Nagano City. Among the important discoveries made during the surveys were missing fragments of a hand-copied manuscript of the Tang dynasty tale "A Dalliance in the Immortals' Den", owned by Kongo-ji Temple and designated as Important Cultural Property.

研究分野：美術史

キーワード：河内 仏教文化 仏教美術 聖徳太子 空海 真言宗 金剛寺 観心寺

## 1．研究開始当初の背景

河内地域は、聖徳太子や行基といった、古代の仏教文化を考える上で極めて重要な人物にもゆかりが深く、両者が建立したという伝説を持つ寺院が多い。また、和歌山県とも境を接することから、弘法大師空海ゆかりの金剛峰寺と地理的にも近く、真言宗に属する古寺にも恵まれている。中世に真言律宗を広めた、叡尊にも関係が深い地域である。にも関わらず、これまで体系的かつ悉皆的な調査はあまり行われてこなかった。そのような状況のなかで、当該地域の真言寺院の双璧ともいえる金剛寺、観心寺の悉皆調査が実施でき、新たな発見もあったということは、学術面のみならず社会的にも意義深いことといえよう。

## 2．研究の目的

大阪府の南東部は旧国名でいうところの河内国にあたる。この河内国を中心とする「河内地域」は奈良時代までは大阪府南西部の海岸側にあたる和泉国の領域も含む広大な地域であった。

この地域は「研究開始当初の背景」でも述べたように、聖徳太子や行基といった、古代の仏教文化を考える上で極めて重要な人物にもゆかりが深く、また、後に高野街道と呼ばれるようになる京都から紀州に抜ける道の間地域であり、弘法大師空海にかかわる真言密教を中心に、独自の仏教文化を保持してきた。

この研究は河内地域の古寺に伝来する文化財の調査を通じて、この地域の歴史的文化的特徴を明らかにすることにある。具体的には古代・中世以来創建の古寺を複数選択して、各寺院伝来の仏教美術や工芸品・中近世絵画・歴史史料などの総合調査を行い、その内容を明らかにし、最終的には京都国立博物館で展覧会として広く公開することを目的とする。

## 3．研究の方法

(1) 4か年全体を通して、調書の作成と写真撮影(フィルム写真またはデジタル写真の撮影)を主に調査作業をおこなう。調査された作品の調書は整理し、データベースに入力してデジタル化を試みる。さらには、調査成果を体系化するために分担研究者が集まって検討会を開催する。

また、京都国立博物館の所有する文化財用のX線CTスキャナー、ポータブル型X線検査装置、据置型及びポータブル型の蛍光X線分析装置、分光器、デジタルマイクロスコープ、ファイバースコープ、三次元デジタル計測機による計測や、ポリライトによる修復の有無の検討など最新の科学的手法も援用して調査を進める。加えて、歴史的な文献資料、関連する書籍文献の収集と検討をおこなう。

上記の調査および計測で得られた情報は、継続的に分類・整理し、最終年度に刊行する報

告書で広く一般に公開する。

(2)各年度においては河内長野市にある真言宗の古刹、金剛寺と観心寺に焦点をあてて絵画、書跡、彫刻、工芸、考古各分野の悉皆的かつ総合的な調査を行うとともに、科学的な分析作業も進める。それら総合的な調査に加えて、毎年1～2カ寺を選んで、分野ごとの作品調査も行う。

これら実地調査とともに、当該地域の文化財に関する文献資料および写真資料を収集・整理する。これら実地調査の成果、収集した資料をデジタル化、データベース化し、それらの情報もまた、最終年度に刊行する報告書の作成に際して適宜参照する。

#### 4. 研究成果

(1)初年度に総合的な調査を行った金剛寺は、奈良時代の天平年間に開山されたといわれ、平安時代、真言密教の隆盛を受けて、平安時代後半には高野山から阿観上人が入山し、現在の金堂、多宝塔、食堂などといった、伽藍配置の基礎を築いたといわれる寺院である。金剛寺では、これまでも膨大な経典や聖教の調査を、京都国立博物館の研究員が十数年に渡り、進めてきていることや、金剛寺を特集した展覧会を開催するなど、所蔵する文化財の一部の調査を行ってきており、今回の調査では、本調査、補足調査をあわせ、計三週間にわたる調査を行い、金剛寺本坊および宝物館に管理されている彫刻、絵画、工芸、歴史資料などの文化財に関して、おおよその調査を完了し、報告書刊行に向けての調書、および写真撮影をほぼ終了することができた。

(2)第2年度には昨年度に引き続き、河内長野市に所在する天野山金剛寺において、塔頭の摩尼院を中心に所蔵文化財の調査および写真撮影を行った。また、本坊においても、甲冑類、文書類に関して補足調査を行なうことができた。その結果、金剛寺の文化財においては一部分野を除き、概ね調査を終えることができた。その中で特筆すべきは、金剛寺の塔頭摩尼院において、本坊金剛寺が所蔵する重要文化財『遊仙窟』の連れとなる部分を発見したことである。また、金剛寺以外では、同じく河内長野市に所在する真言宗の古刹観心寺において、第1回目の悉皆調査として宝物館の収蔵庫に収められている文化財を中心に、作品の整理を兼ねた調査を行った。この作業により、収蔵庫内の作品についてはほぼ全貌を把握することができた。さらに、聖徳太子および叡尊にゆかりがある八尾市の教興寺においては、彫刻作品を中心に所蔵文化財の調査を行なった。

(3)第3年度は昨年度に引き続き、河内長野市に所在する天野山金剛寺において、文書関係を中心に所蔵文化財の補足調査および写真撮影を行った。また、同じく河内長野市に所在する真言宗の古刹観心寺において、昨年度の悉皆調査に引き続き、総合的な調査を行った。

秋に予定していた調査は、先方の都合等で翌年に実施を送らざるを得なかったが、その調査も翌年6月に無事終了した。その結果、観心寺の絵画、工芸、考古部門においては、当初の目的通りの調査を行うことができた。また、書跡、彫刻部門においても、今年度に予定していた作品の調査を終えることができた。

(4) 4か年計画の最終年度も、昨年度に引き続き河内長野市に所在する観心寺において悉皆調査を行い、所蔵文化財の調査および写真撮影を行った。その結果、観心寺の文化財においては秘仏などの一部分野を除き、概ね調査を終えることができた。観心寺以外では、聖徳太子および叡尊にゆかりがある八尾市の教興寺において、第2年度に続き、大阪大学文学部藤岡穰研究室ならびに八尾市教育委員会と共同で、彫刻を中心とする所蔵文化財の調査を行った。また、河南町の高貴寺においても、彫刻作品の調査を行った。教興寺調査の成果は、八尾市教育委員会および大阪大学から令和2年度中に報告書が刊行される予定である。

(5) これらの調査のうち、平成28年度～29年度に行った金剛寺調査から、彫刻作品に関しては第3年度末に『社寺調査報告書29 金剛寺(彫刻編)』と題する報告書を刊行した。また、すでに報告書を刊行した彫刻分野をのぞいた金剛寺、および観心寺の全分野について、それぞれ『科学研究費補助金報告書 河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究 金剛寺編』『同 観心寺編』という2冊の報告書を最終年度末に刊行した

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 浅湫 毅	4. 巻 43
2. 論文標題 英彦山中興法蓮上人の肖像について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 34-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 浅湫 毅
2. 発表標題 英彦山中興法蓮上人の肖像について
3. 学会等名 仏教文学会4月例会シンポジウム 奈良時代の高僧の「伝」と「肖像」 古代から中世へ（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中 健一
2. 発表標題 天野山金剛寺の仏像
3. 学会等名 京都国立博物館夏期講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅湫 毅
2. 発表標題 仏師とその工房をめぐるいくつかの試案
3. 学会等名 仏教美術研究上野記念財団助成研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井並 林太郎
2. 発表標題 遊行上人縁起絵の転写について
3. 学会等名 仏教美術研究上野記念財団助成研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 佐々木丞平・降矢哲男・呉孟晋・浅湫毅・伊藤信二・井並林太郎・上杉智英・大原嘉豊・永島明子・羽田聡・福士裕也・宮川禎一・山川暁・山本英男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 毎日新聞社	5. 総ページ数 397
3. 書名 国宝	

1. 著者名 永島明子・浅湫毅・伊藤信二・羽田聡・福士裕也・降矢哲男・宮川禎一・山川暁	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 159
3. 書名 豪商の蔵	

1. 著者名 京都国立博物館（監修）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 KKベストセラーズ	5. 総ページ数 230
3. 書名 日本の宝	

1. 著者名 井並林太郎・浅湫毅・伊藤信二（分担執筆）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 30
3. 書名 丹後の仏教美術（展覧会図録）	

1. 著者名 羽田聡・浅見龍介・浅湫毅・池田素子・呉孟晋・末兼俊彦・永島明子・福士雄也・降矢哲男・山川暁・山本英男（分担執筆）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 466
3. 書名 禅 心をかたちに	

1. 著者名 京都国立博物館	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 48
3. 書名 社寺調査報告書 29 金剛寺（彫刻編）	

1. 著者名 京都国立博物館	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都国立博物館・朝日新聞社	5. 総ページ数 270
3. 書名 国宝一遍聖絵と時宗の名宝	

1. 著者名 京都国立博物館	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 178
3. 書名 科学研究費補助金報告書 河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究 金剛寺編	

1. 著者名 京都国立博物館	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 130
3. 書名 科学研究費補助金報告書 河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究 観心寺編	

1. 著者名 京都国立博物館	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都国立博物館・読売新聞社	5. 総ページ数 296
3. 書名 聖地をたずねて 西国三十三所の信仰と至宝	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅湫 毅  (ASANUMA TAKESHI)  (10249914)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部連携協力室・室長   (84301)	
研究分担者	降矢 哲男  (FURIYA TETSUO)  (10747330)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部工芸室・研究員   (84301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	末兼 俊彦  (SUEKANE TOSHIHIKO)  (20594047)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部工芸室・主任研究員    (84301)	
研究分担者	浅見 龍介  (ASAMI RYUSUKE)  (30270416)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・課長    (82619)	
研究分担者	羽田 聡  (HADA SATOSHI)  (30342968)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部美術室・室長    (84301)	
研究分担者	上杉 智英  (UESUGI TOMOFUSA)  (50551884)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部美術室・研究員    (84301)	
研究分担者	呉 孟晋  (KURE MOTUYUKI)  (50567922)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部列品管理室・主任研究員    (84301)	
研究分担者	福士 雄也  (FUKUSHI YUYA)  (50747334)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部美術室・研究員    (84301)	
研究分担者	降幡 順子  (FURIHATA JUNKO)  (60372182)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部保存科学室・室長    (84301)	
研究分担者	井並 林太郎  (INAMI RINTARO)  (80747329)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部企画室・研究員    (84301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大原 嘉豊 (OHARA YOSHITOYO)  (90324699)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部保存修理指導室・室長  (84301)	
研究分担者	伊藤 嘉章 (ITO YOSHIAKI)  (80213099)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・その他部局等・副館長  (84301)	
研究分担者	池田 素子 (IKEDA MOTOKO)  (70573179)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部列品管理室・アソシエートフェロー  (84301)	